

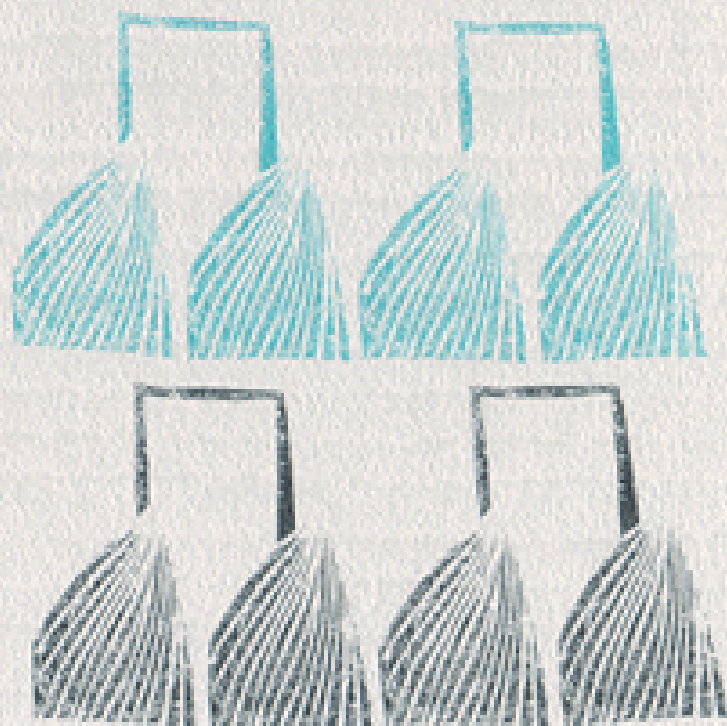
精選作家叢書

Ⅳ

本阿弥書店

航跡

芳賀雅子句集



航跡の白のまぶしき夏の湖

真つ先に夫の箸ゆく冷奴

幼な日をたぐりよせをり秋祭

冬の海絢模様
に波立ちぬ

木の実落つ五十路の坂を迷はずに

渴筆の秘めし強さや石路の花

憧れのまだある齡黄水仙

夏桔梗滋味なる言葉かみしめて

娘がこころ少しひろげて夏の月

初椿うれしきことの一つ増え

薰風や言葉飾らぬ人とゐて

飛石の蔵へとつづく落椿

蔵壁の隅の剥落実南天

禅堂の魚板の窪み龍の玉

冬日向はき癖のある夫の靴

鳳仙花まだ路地裏に残る井戸

飛べさうな肩の軽さや更衣

初富士へ真つすぐのびる鉄路かな

手術待つ冷たき椅子の軋みかな

松の芯ひとり道ののはじまりぬ

いくたびか夫の夢みて若葉冷

もう夫の葉を捨てむ雁来紅

木の葉雨生きてゐることしみじみと

秋の虹嵐が丘の小さき花

秋爽のシヨパンの指の細かりき

春愁やミレー画きし「オフエーリア」

黒葡萄ギリシヤに神の多きこと

やはらかき流れのありて露の臺

掛軸の一字にはづむ夏座敷

ひらめきの雫の欲しき犬ふぐり

若楓天守閣への十の門

豊かなる孤独となりて落葉踏む

風鈴をあまた吊して北の駅

果てしなき越後平野の青芒

鰯雲橋の真中の県境

秋 海 棠 夫 の 遺 愛 の 備 前 焼

虫 時 雨 娘 は 遠 国 に 着 き し こ ろ

ひ と ひ ら の 雲 消 え ゆ き て 秋 祭

初 め て の パ ソ コ ン 通 信 天 高 し

薄 紅 葉 社 を め ぐ る 流 れ あ り

「イマジック」の流るる館薄紅葉

海峡を望む古城や茨の実

黄落や煉瓦造りの美術館

庭下駄の木目くつきり初時雨

しぐるるや中仙道の白き壁

大奥の生活を偲ぶ冬館

冬さうび表紙とれたるソナタ集

土壁の鷗外旧居冬木の芽

冬ともし小町百歳卒都婆像

豊かなる孤独となりて落葉踏む

著者略歴

芳賀雅子（はが・みやこ）

1932年 5月24日 兵庫県神戸市に生まれる

1983年 6月 小澤克己に師事

1992年 5月 「遠嶺」入会

1993年 5月 「遠嶺」同人

2000年 8月 「遠嶺」高嶺集同人、現在に至る

現住所 〒350-1124 川越市新宿町6-19-21

電 話 049-244-0480

句集 こう 航 せき 跡 <精選作家双書Ⅷ>

2001年 8月23日 初版発行

定 価：本体2800円（税別）

著 者 芳賀 雅子

発行者 本阿弥秀雄

発行所 ほんあみ 有限会社 本阿弥書店

東京都千代田区猿楽町2-1-8 三恵ビル 〒101-0064

電話 03(3294)7068（代） 振替 00100-5-164430

印 刷 三和印刷 製 本 松栄堂製本所（1565）

©Miyako Haga 2001

ISBN 4-89373-744-9